



## インターネット裏サイトの 女王

著者:マイク・モナック

イラスト:ジェイソン・トンプソン

奇怪な擬似次元界の裏サイトには、神性を得た妄想にふける狂ったドライバーが世界の精神を絡め取り、すべての現実を征服して彼女が想像した奇怪な仮想世界へ置き換えようとしている。みずからインターネットのデーモン女王、ワロスと名乗る彼女のおかしな陰謀にプレイヤーは終止符を打つことができるだろうか？

### 背景

インターネットはフェイダークと“彼方の領域”の間のどこかにある擬似次元界である。それは究極の悪のかけらがフェイワイルドに接触して発生したのだろうと推測する者たちもいる。

インターネットをフェイダークの一部と誤認してしまうのは簡単だ。インターネットはフェイダークのように、すばらしく魔法的な風景が広がる地下の領域なのだから。それは管の集合体だと主張する者たちもいる。インターネットはフェイダークのようにインターネット海賊が棲む広大な地下の海もあり、じめじめしたダンジョンはあらゆるエロ画像を好むクリーチャーであふれている。この領域は多くの人にとって果てしなく魅力的だ。ほとんどの者は入ったまま行方知れずとなり、そのまま戻ってこない。しかし、これらの洞窟が異質なのはフェイの基準からしてもすぐわかることだ。

インターネットの壁には白い蜘蛛の巣のように純粋な思考によるスレッドが重なり合っている。これらのスレッドは空中を花粉のようにただよっていて、かろうじて見つけて触れることができるものだ。これらはインターネットを照らす不気味な明かりによって輝く。これらは自分の頭がいいとうぬぼれているクリーチャーに引き寄せられ、それに絡みつく。インターネットに長くとどまる者にほど、それはどンドン絡みついていく。一度くつついたなら、その旅人の

精神にはテレパシーによって他のクリーチャーによる、子どもたちの成績、男性アイドル、男女交際についての不穏な考えなどがほとんどの絶え間ないおしゃべりが聞こえるようになる。

## インターネットへの旅

インターネットへ入るにはいくつかの方法があり、多くの来訪者はまったくの偶然によってこの次元界を見つけて入ってしまう。君たちの冒険者パーティがインターネットにいると気づくにはいくつかの方法がある。

- ◆ 冒険者にとって信頼のおける友人として扉の街シグルからやってきたチェンジリングが、彼らが探している次元界への道案内を買ってでる。しかし彼は彼らをインターネットへ送ってしまう。冒険者たちが彼に理由を聞いたのだしたら、彼はただこう応じる「ワロス」。彼らの後ろで扉が閉まって初めて、彼は真の名がパーボンハウスであることを明らかにする。
- ◆ 冒険者たちは彼らの問いすべてに答えることができるなぞめいた原始の精霊について耳にする。彼らが指定された場所へ向かうと、耳の先端が黒い長くひげを伸ばした大きな猫が現われる。質問されると、その獣は冒険者たちへついてくるよう身振りを送ると遠くへ歩き出す。そうしているうちに彼らはいつの間にかインターネットへ導かれたと気づくかもしれない、ここで彼らはやみくもにlynxを使うのではないと学ぶのだ。
- ◆ パーティはザ・ブック・オヴ・フェイスと呼ばれる魔道書に出会うかもしれない(下記参照)。

## インターネットの仕組み

### 新たなアイテム:ザ・ブック・オヴ・フェイス

ブック・オヴ・フェイスはあまりにもありふれた呪いのアイテムである。〈魔法学〉を修得しているキャラクターなら誰でも、この魔法のアイテムを使用することでテレパシーによる会話を自家薬籠中にできると信じている。だが、このアイテムはインターネットへの片道切符だ。

#### ザ・ブック・オヴ・フェイス

The Book of Face/顔本 14レベル・あまりにもコモン

このどっしりした魔道書の表紙には特徴のない顔があり、あなたの現状を報告するように懇願してくる。

14レベル 680gp

#### 呪いのアイテム

##### 特性

友達を探す使用者が最初にこの魔道書を発見したとき、使用者は視認可能かつ同意した味方を8体まで指定する。彼らは使用者の“友達”として登録される。彼らが使用者と同一の次元界に存在する限り、使用者はその友達それぞれの正確な居場所を精神的に認識できる。

プライバシーポリシー-使用者は視認可能なあらゆる友達とテレパシーで会話を行なえる。しかし使用者および使用者の友達には無断で、使用者あるいは使用者の友達を視認可能なあらゆる敵もまた、その会話を聞くことができる。

いいね! 使用者は友達の行なった行動を“いいね!”と感じた時、使用者の友達すべては使用者がその友達の行動を“いいね!”と感じたと認識する。彼らは知っているが、気にかけることもない。

アップグレード-使用者はこのパワーが使用者および使用者の友達に永続的なテレパシーによる接触を与えると信じてしまう。そのかわり、使用者たち全員は即座にインターネットへと移動させられる。このパワーを使用すると同時に、この魔道書は所有者の手元から消え去り新たな所有者を探すために瞬間移動する。

## 新たな病気:インターネット中毒

インターネットの薄っぺらなスレッドによってクリーチャーの精神に流し込まれる情報のおそろべき陳腐さは、犠牲者をゆっくりと“ミーム”として知られる種類のクリーチャーへと変異させる。インターネットの中で1回の大休憩を取ったあらゆるクリーチャーはインターネット中毒の第1段階となり、最終的にはその犠牲者をミームへと変えてしまう。こうなったクリーチャーはDMが管理するNPCとなる。ミームはインターネットの外で生きることができない。

**インターネット中毒** 12レベルの病気  
Interwebz Addiction

インターネットの薄っぺらいスレッドが君にとりつき、君を動かし、君の心を侵食して君の時間すべてをジャンク・フードを食べながらインターネットに費やそうとさせる。

**第0段階:**目標はこの病気から回復する。しかし、目標がふたたびインターネットの中で大休憩を取った場合、目標はふたたび感染する。

**第1段階:**第1段階にある間、目標はインターネットでおしゃべりをして気晴らしをしたい気持ちでいっぱいになる。目標はすべての時間をインターネットに費やしたくなる。

**第2段階:**第1段階にある間、目標はその肉体がしなびたジャガイモのようになり、味方から急ぎ立てられなければ寝心地のいいふかふかの椅子にもたれ、インターネットでおしゃべりすること以外への関心を失う。

**第3段階:**第1段階にある間、目標は手遅れなほどミームへと変異してかつての人生で起こった詳細すべてを忘れてしまう。インターネットの外で大休憩を取った場合、目標は死亡する。

**判定:**大休憩の終了時毎に、目標は〈持久力〉判定を1回行なう。

15以下:病気の段階は1段階進行する。

16~20:変化なし。

21以上:病気の段階は1段階減少する。

## 新たなモンスター・テーマ:ミーム

多くのクリーチャーはフェイダークからインターネットへ迷い込む。インターネット中毒に負けてしまったら、彼らはインターネットに定住し、この領域にふさわしい能力を得る。

あらゆるクリーチャーはミームになりうる。フェイダークが近い(ため、もっとも多くありふれたミームはスケアクロウ(厨として知られる)やディスプレイサー・ビースト(ワロスカットとして知られる)理由は不明だが、トロールも異常な量がインターネットに引き寄せられる。

言語:【知力】が3以上のミームすべては、匂井千ユー言吾として知られる歪んだ共通語を修得する。

### プロからの助言

“モンスター・テーマ”についてのルールは『ダンジョン・マスターズ・ガイドII』の104~123ページに収録されている。モンスター・テーマをクリーチャーに適用する際は、攻撃パワーあるいは汎用パワーひとつをクリーチャーのステータス・ブロックに加えること。

## 攻撃パワー

### ノム・ノム・ノム

ミームの噛みつきかたはとりわけ残虐だ。

**ノム・ノム・ノム/飯なう**(標準アクション、再チャージ5、6)

ミームは噛みつき攻撃を3回行ない、その間は魅力的に見える。

### OMGWTFBBQ

ミームには彼らの敵を炎上させて楽しむものもある。

**OMGWTFBBQ/発見特定炎上**(標準アクション、無限回)

ミームは近接基礎攻撃を行なう。成功した場合、目標はさらに5点の[火]ダメージを受ける。

### パーソナル・アタック

このミームの攻撃は単に君の体を狙ったものではない。彼らは君の精神をとて不快にさせる。

**パーソナル・アタック/個人攻撃**(標準アクション、無限回)

ミームは基礎攻撃を行なう。成功した場合、目標はそのママ(それにママがいるかどうかは関係ない)を頼って泣き叫ぶ。

### ブウンド

これらのミームはクリティカル・ヒットを新しい破壊的な方向に活用する。

**ブウンド/フルボッコ**(対応、無限回)

ミームが敵に対してクリティカル・ヒットを発生させた場合、その敵は支配状態となり匂井千ユー言吾を話すことしかできなくなる。

## 汎用パワー

### クールフェイス

炎上が好きミームのほとんどはそれに抵抗できる。

**クールフェイス/スルー**(特徴)

ミームはそれが持つ[火]への脆弱性すべてを失う。さらに、ミームの[火]への抵抗は5上昇する。

### フェイスパーム

彼らの敵が起こした間抜けなくじりで強くなるミームもある。

**フェイスパーム/今どんな気持ち?**(対応、遭遇毎、回復)

トリガー:ミームが視認できる敵1体が攻撃ロールあるいは技能判定で目1をロールした

効果:ミームは自身の顔を叩き、10hpを回復するが、それはその次のターン開始時まで盲目状態になる。

### モア!

ミームには彼らの仲間をより大きく成功させるために卵を投げつける奇妙な能力がある。

**モア!/支援**(対応、遭遇毎)

トリガー:ミームの視認可能な味方1体の近接あるいは遠隔基礎攻撃が敵1体にヒットした。

効果:その味方はフリー・アクションでもう一度その攻撃を行なうことができる。

### ラエグ

ミームは死に際がもっとも危険な瞬間となることもある。

**ラエグ/くぁwse drftgy ふじこlp**(割込、遭遇毎)

トリガー:ミームにそのヒット・ポイントを0以下にする攻撃がヒットした時。

効果:ミームは必死になり、誤字の嵐と論理的破綻の殺到で目標を圧倒する。

## 新しいモンスター

インターネットにはこの領域のインターネット中毒に負けて変異した数種類の奇怪なクリーチャーがうろついている。これら“ネット住民”の中でも最悪の存在こそ領域の女王、ワロスである。

### ワロス

10年ほど前にインターネットへ落ち、すぐにインターネット中毒に屈した存在である。インターネットのスレッドに氾濫する情報は彼女を酔わせてすぐに定命の頃の記憶を消し去った。彼女はその狂気により、自分自身で新たな自我を形成した。彼女は自分こそが

アビスのデーモン女王、女神ロルスの化身であると思込んでいる。彼女は自身の名前をワロスとし、インターネッツのもっとも深く暗い場所——彼女が“裏サイト”と呼ぶ場所——に要塞を築いた。

ワロスの外見は髪の色は#F8F8FF、肌の色は#000080の魅惑的なドライダーである。彼女の髪にはインターネッツのスレッドが絡まり、彼女にこれまで例を見ない領域を覆うテレパシー織との繋がりを与えている。

<b>ワロス</b>	<b>14 レベル・兵士役</b>	
大型・フェイ・人型生物(スパイダー)、ドラウ	XP1000	
hp:0_0;重傷値:>_<	イニシアチブ:-P	
AC:-D、頑健<3、反応<0、意志:-)	〈知覚〉o_0	
移動速度:==:-)、ゴロゴロ:- _:_ :-)		
<b>標準アクション</b>		
<b>[M]なんぞこれ/lolwut([武器])</b> +無限回		
攻撃近接 2(クリーチャー 1 体);+19 対 AC		
ヒット:3d8+9 ダメージ。目標はくすくす笑いが止まらずに何が起こっているかわからなくなり、幻惑状態になる(すべてセーブ・終了)。		
<b>[r]テラワロス/LMAO</b> +遭遇毎		
攻撃遠隔 10(クリーチャー 1 体);+17 対“反応”		
ヒット:3d12+5 ダメージ。目標は腰が抜けるまで爆笑が止まらなくなる。		
<b>トリガー時アクション</b>		
<b>わっふるわっふる/ROFLwaffle</b> ([死霊]、[毒]) <b>+無限回</b>		
トリガー:敵 1 体がワロスへの攻撃をミスする。		
効果(機会アクション):近接爆発 10(爆発内のトリガーを発生させた敵);目標は伏せ上体になり、永遠においしそうなワッフルの香りを漂わせる。		
<b>技能:</b> 〈隠密〉_、_		
<b>【筋】</b> 23(+13)	<b>【敏】</b> 18(+11)	<b>【判】</b> 11(+7)
<b>【耐】</b> 18(+11)	<b>【知】</b> 8 (+6)	<b>【魅】</b> 20(+12)
<b>属性:</b> >:-)	<b>言語:</b> -X、 <b>クヰンキュー</b> 言語	

## ワロスカット

インターネッツに迷い込みインターネッツ中毒になったディスプレイサー・ピーストはワロスカットとして知られる獣へと変異する。ワロスカットは彼らの親類であるディスプレイサー・ピーストよりもより猫科の特徴が強く出ている。ワロスカットはチーズをつけあわせた牛のひき肉が好物である。

<b>ワロスカット</b>	<b>9 レベル・遊撃役</b>	
超小型・フェイ・助言者・動物	XP400	
hp:97;重傷値:TよLτ~TよL~あ乃	イニシアチブ: よやし、	
AC23、頑健 21、反応 22、意志 20	〈知覚〉みτあよ	
移動速度:12		
<b>特徴</b>		
ま~< よ_きみ乃……/Im In ur...([幻])		
ワロスカットは床や天井、あるいは冒険者の背負い袋の中からすらその顔を突き出す。しかしこれは幻である。実際のワロスカットは、おそらく_きみと隣接した正面のマスに潜んでいる。ワロスカットを目標にした近接あるいは遠隔攻撃では、敵はその前にこれがどのマスにいるのか正確に当てなければならない。		
<b>標準アクション</b>		
<b>[M]ちよ、一旦落ち/G2G BRB</b> +再チャージ 5、6		
効果:ワロスカットは移動速度の半分までのマスをシフトし、その次のターン開始時まで不可視状態になる。その移動と同時に、_きみの持ち物は奪われる。		
<b>トリガー時アクション</b>		
<b>僕にもくれよ……/I Can Haz...</b> +遭遇毎		
トリガー:ワロスカットに武器あるいは装具を使用した攻撃がヒットし、クリティカル・ヒットになる。		
効果(割込):攻撃は失敗となり、ワロスカットは武器あるいは装具を奪う。それはワロスカットが殺されるまで戻ることはない。		
<b>技能:</b> 〈隠密〉+14		
<b>【筋】</b> 18(+8)	<b>【敏】</b> 20(+9)	<b>【判】</b> 17(+7)
<b>【耐】</b> 17(+7)	<b>【知】</b> 4 (+1)	<b>【魅】</b> 10(+4)
<b>属性:</b> 無属性	<b>言語:</b> クヰンキュー言語	

## オブヴィオス・トロル

荒らし  
トロルは煽り荒らしやネタバレ荒らしなど、さまざまな形でインターネッツにはびこっている。インターネッツでより弱い種類のトロールとしては、オブヴィオス・トロルがいる。オブヴィオス・トロルはどこからどう見ても荒らしだ。オブヴィオス・トロルの再生は[火]ダメージでも抑止できず、戦闘では荒らしを殺せない。荒らしを止める唯一の方法は、彼を無視し去るのを待つことだ。

<b>オブヴィアス・トロル</b>	<b>15 レベル・暴れ役・雑魚</b>	
大型・自然・人型生物	XP0	
(君はトロルを倒しても何も学べない)		
Hp:1;ミスした攻撃は雑魚にダメージを与えない。	イニシアチブ:+50 (常にトロルは最初に攻撃する)	
AC27、頑健 29、反応 27、意志 25	〈知覚〉+6	
入力速度:600 文字/分	(意図的に盲目)	
<b>完全耐性:</b> [火]		
<b>特徴</b>		
<b>俺は追い払えない/キャンツ・ゲット・リッド・オヴ・ミー</b>		
トロルはたとえ死んでいてもそのターンの開始時に受けているすべての状態を回復させ、完全に回復する。戦闘開始後もトロルが攻撃せず、難易度 20 の【魅力】判定に成功しなければレイジ・クイット(下記参照)をする。		
<b>標準アクション</b>		
<b>[M]荒らし/フレイミング([火])</b> +無限回		
攻撃近接 2(クリーチャー 1 体);+20 対 AC		
ヒット:10 点の[火]ダメージ、および 5 点の継続的[火]ダメージ(セーブ・終了)。		
<b>トリガー時アクション</b>		
<b>レイジ・クイット/去りゆく荒らし</b> +遭遇毎		
効果(フリー・アクション):オブヴィオス・トロルは間合い内の敵すべてに近接基礎攻撃を行ない、プレイから永久に姿を消す。		
<b>【筋】</b> 18(+8)	<b>【敏】</b> 20(+9)	<b>【判】</b> 17(+7)
<b>【耐】</b> 17(+7)	<b>【知】</b> 4 (+1)	<b>【魅】</b> 10(+4)
<b>属性:</b> 混沌にして悪	<b>言語:</b> 巨人語、クヰンキュー言語	

## 冒険の結末

ワロスと彼女の下僕を倒した冒険者は、広大な未知の擬似次元界であるインターネットを探検し続けようとするかもしれない。彼らがインターネット中毒の影響から逃れられているかぎり、冒険者はインターネットを自由に旅することができるだろう。多くの者はそこが避けることのできない刺激的な冒険で満たされる次元界だと理解できる。以下には冒険の例をいくつか挙げておく。

- ◆ **秩序が必要だ。**冒険者たちは彼が戦うミームたちから“自治厨”と呼ばれるパラディン、ゴドウィンと知り合う。彼はこの擬似次元界にありえそうにもない状態のひとつである、管理人を確立することが正しいことだと信じて残っているのだ。
- ◆ **俺、お前、殴る。お前、なぜ、死なない？** エルマゲルトというドルイドはインターネット中毒に負け、この擬似次元界を征服するために勇気あるウルフたち、哲学するトカゲたち、社会的に不器用なペンギンたちなど、彼女の名において忠実な動物たちを呼び集め始めた。
- ◆ **私は死んだ厨房を見た。**スレッドの死霊術師がインターネットの沈んだスレッドを利用する方法を見つけ出し、インターネットにゆっくりネクロ荒らしとゾンビ厨房をばびこらせている。

### 著者について

マーク・“wrevan”・モナックはウィザーズ・オブ・ザ・コーストや他のRPG出版社で執筆するフリーランスのライターで、有名なブログ『Unearthed Wrecana』も書いている。彼はこの記事がアメリカでもっとも歴史あるユーモア誌で、かつて共同編集長のひとりだった『Punch Bowl』に捧げている。